



社団法人
滋賀県理学療法士会
ニュース

No.165 (2011-2)

<http://www.shiga-pt.or.jp>

2011.4.1発行

発行者：(社)滋賀県理学療法士会 本白水 博
〒520-8575 大津市御陵町3-1
大津市健康保険部 健康長寿課
電話 077-528-2741 FAX 077-526-8382

編集者：前田 将樹(山田整形外科病院)
藤井 淑子(彦根市立病院)
田村 瑠亜(ひかり病院)
小倉 正和(公立甲賀病院)

印刷所：(株)東 呉 竹 堂 (ひがし印刷)

訪問看護師から理学療法士に望むこと

高島市訪問看護ステーション (社)滋賀県看護協会 武 内 美英子

滋賀県においては、平成15年から各圏域における地域リハビリテーション広域支援センター活動が始まり、滋賀県立リハビリテーションセンター設立等で県を挙げての、県民の方に対するリハビリテーションの充実化がなされてきています。私たち訪問看護ステーションも、このような事業活動の支援を受けながら、日々の訪問看護で活用させていただいています。当訪問看護ステーションでは、平成19年には「生活意欲を高める訪問看護でのリハビリテーションの実施」というテーマで研究を行い、理学療法士等との連携を通して、専門的な指導を受けながら、環境調整、福祉用具の選択など個別性のあるかわりができ、具体的な変化についての評価を本人に告げる事により、意欲を高める等の成果を得ることができました。これを機会に、今も継続して利用の方が望まれる効果的なリハビリテーションへと広がっています。

近年は、社会情勢の変化により入院期間の短縮化、在宅推進、在宅重視になっていることから、在宅現場は、まだまだ専門家によるリハビリテーションが必要な方が増えてきています。しかし、訪問リハビリテーションのマンパワーが不足しており、訪問看護でその代用を要求されることが多いのが現状です。理想的なかわりとしては、ケアマネジャーを中心に在宅に移行してから生活に密着した具体的で実行可能な目標と内容を、本人、家族、関係機関とともに設定することと考えます。ADLの維持・拡大に関して理学療法士等が専門的観点から核となって、日常生活の中での、体位、姿勢、移動、介助方法等、注意点も含めて、訪問介護、訪問看護、ショートスティ、デイサービス等のケア時にも取り入れ継続できるように進められたらと思います。福祉用具や自助具の選択も、介護保険以外に家庭にある物での工夫や、安価で購入しやすい物等、生活と密着した視点でアドバイスしていただけることを望みます。

また、在宅での理学療法士のマンパワー不足に関

しては、入院時のリハビリテーション時に退院後の在宅生活を考えた具体的な支援、病棟での入院生活の中にも、在宅生活がイメージできるようなかわりをもち、在宅へ移行されることが望めます。その為にも、病院の理学療法士や病棟看護師が、同じリハビリ目標や援助方法を共有し、入院生活の中で展開していけると、理学療法士間の連携、病棟看護師と訪問看護師の連携の中でも継続していける部分ができます。退院当初は、在宅の生活が安定するために、集中的な医療支援が必要であるといわれていますが、すでに入院中に取り組めていれば、退院直後から本人や家族自ら実践できる部分や、関係機関もスムーズに援助につなげることができるので、今のマンパワー不足を少しは補っていけると考えます。そして、本人に対して入院中に対応されていた理学療法士等が、退院後の様子を確認されることにより、在宅の関係者を含め要所所所で一緒に評価したり、問題点に取り組むことができれば、本人の意欲やQOLをさらに高めていけると思います。

訪問看護師が行うリハビリテーションは、看護の中で行うので、利用者の方から期待される部分との相違があるのも事実です。また、訪問看護師が一人で行うので、手技がこれでよいのか、個人差が生じていないか、どの程度行ったらよいかなど、様々な問題を抱えています。事業所内で話し合っても、視点が同じで解決できない問題もあります。しかし、一緒に目標設定し、段階ごとに評価していくことで、看護師は勿論、本人、家族の方が安心され、共に取り組んでいるという信頼感や意欲を引き出すことにつながります。これからも、少しでも多くの利用者の方にこのような取り組みが展開できることを望みます。そして、私たちが在宅の場で、安心して安全な看護が提供できるように、一緒に学習できる場を持ったり、在宅生活の支援者として、在宅の現状や問題点を共に話し合える機会を持っていくことを期待します。

平成22年度 第9回滋賀県理学療法士会理事会報告(要約)

日 時	平成23年1月14日(金)	17時50分～20時45分
会 場	済生会滋賀県病院	
議 長	本白水会長	
出席者	平岩、松岡、久保、酒井、武田、弘部、柴田	

○審議事項

1. 予算・事業計画について

12月に開催された拡大理事会の各部からのヒアリングを基に作成された事業計画・予算案が提示され、大枠においては承認された。今後、詳細につき調整していく事となった。

2. 士会活動保険について

損保ジャパンの担当者よりレクリエーション保証プランにつきプレゼンテーションがなされた。当会の活動状況と照らし合わせ、導入につき検討していく事となった。

3. 公益法人について

公益法人取得に向け、定款の改定案の作成を進めている。新規に理事会報酬を導入し報酬規定を作成、名誉会員については士会費を無料とする方針。その他、基本財産の見直し、特定資産の積み立て計画などを作成していく予定。また、新たな監事についても人選していく。

○報告および承認事項

1. 各部・各委員会の活動について

総務部：会員数603名（施設数113 自宅会員46）、県内異動1件、転入2件、休会1件。

会長印、会印を事務局で保管するよう変更した。使用簿についても作成する。

総務部：休会1件が承認された。会員数が減少傾向にある。

財務部：会費未納者46名に対し、協会より再度督促状が送付された。2月号士会ニュースに、会費納入のお願いと休会についての説明文書を掲載する。

広報部：12月号士会ニュースは原稿が遅れた事で校正が不十分な状態で印刷された。会員数の増加に伴い平成23年度6月号より増刷する予定。

学術誌部：学術誌の原稿が集まり、今後編集へと進める。特別寄稿に関しては入稿された時点で原稿

料を入金する方針となった。

診療報酬部：次年度事業とし、今後の活動の方針決定のための部会の開催と予算の計上に関して承認された。

介護保険部：PT・OT・ST合同研修会は120名が参加予定。訪問リハビリテーションに関し、3士会で滋賀県訪問リハビリテーション協議会を設立し、次年度までは運営につき協力していく事となった。

公益事業部：3月に開催する高校生の理学療法体験は、滋賀医療技術専門学校と協力し開催する。

表彰委員会：士会の推薦にて叙勲を受けられた砂川勇氏の授章記念式典にて、士会より祝い金を持参する事が承認された。

公衆衛生学会：今年度の特別講演は「ソーシャルキャピタルと健康づくり」講師：首都大学東京・大学院教授 星 旦二先生。士会から一般演題の座長として、大橋 潤一氏（大津保健所）を推薦。県学会：平成23年5月22日(日)に予定していた学術集会は諸事情により平成23年6月5日(日)に開催日を変更する事が承認された。それに伴い定期総会の日程を再調整する。

4. その他

・平成23年1月23日(日)開催される協会の包括管理システムの講習会に平岩副会長が参加を予定。



平成22年度 第10回滋賀県理学療法士会理事会報告(要約)

日 時	平成23年 2 月10日 (木)	17時50分～20時25分
会 場	済生会滋賀県病院	
議 長	本白水会長	
出席者	平岩、宇於崎、松岡、久保、弘部、柴田	

○審議事項

1. 予算事業計画について

前回の理事会で提案された損保ジャパンのレクリエーション保険については、次年度に部分的事業で導入していく予定。今後、他の保険についても引き続き情報収集していく。

2. 学術誌部の査読システムについて

県士会として学術誌、学術集会に関する査読委員会・倫理委員会を立ち上げる必要があるとの提案があった。

査読・倫理システムの立案と共に、今後は査読・倫理委員会を立ち上げる方向で検討していく。また、委員についても理事会にて推薦していく予定。

3. その他

- ・平成23年度の定期総会は平成23年6月5日(日)の県学術集会終了後に開催予定
- ・県で開催している理学療法士講習会の運営につき、士会組織としての対応につき検討していくこととなった。

○報告および承認事項

1. 各部・各委員会の活動について

総務部：休会1名が承認された。その他、休会の継続1名。

財務部：事業費請求書などを新書式に変更した。

協会から事情によりクレジットカードを楽天に変更するとの連絡があった。変更方法の詳細については今後協会より周知される予定。すみやかに切り替えを促して欲しいとのこと。

広報部：2月号ニュースを発行した。4月号ニュースの巻頭文を滋賀県看護協会へ依頼。

厚生部：平成23年度の新人歓迎会は平成23年6月26日(日)の新人研修会後にあたか飯店にて開催予定。

生涯学習部：新人症例発表会を今年度は一日に集

約して行った。参加者数も多く質疑などが活発に行われた。

職能部：定款の改定に向け県の担当者と情報交換している。次年度総会までに完成するよう調整していく。

今後、士会ニュースで士会員に対して公益法人について周知していく。

公益事業部：高校生の理学療法体験を平成23年3月30日(水)に開催する予定。定員は先着80名。

県学会：次期学会長は滋賀医療技術専門学校の分木ひとみ氏を推薦する予定。

需求調査委員会：アンケート調査を近日中に実施する予定。介護施設等にも広く調査していく。

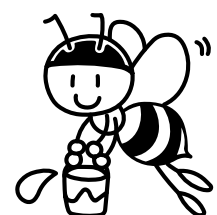
2. 今後の事務予定について

・包括的会員管理システム説明会報告

会員管理、生涯学習管理を含めた総合的なWEB上での管理システムが来年度、準備ができ次第開始されとのこと。管理システムの生涯学習システムを稼働させるにはこれまでの履修状況を登録しなければならず、士会が協力する必要がある。また、学会・研修会の登録、申込などもWEB上で出来る予定。

・会員の派遣について

大津市の介護給付費等の支給に関する審査会に今井相談役、桂 純一氏(ひかり病院)、出野 智子氏(青木医院)、彦根市の障害程度区分等に関する審査会に原 正幸氏(はら理学治療院)、吉田 勝巳氏(彦根市立病院)を派遣する事が承認された。



こ ん な 本

読みました！



【題 名】

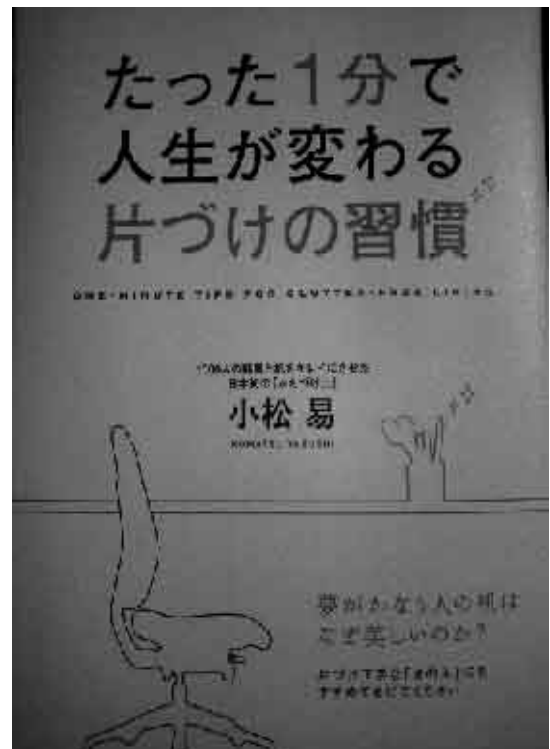
たった1分で人生が
変わる片づけの習慣

著 者：小松 易

出版社：中経出版

滋賀医科大学医学部附属病院 大 崎 千恵子

みなさんは片づけを習慣にされていますか？片づけが得意な方、苦手な方、様々だと思います。私も片づけようと思いつながらなかなか行動に移せないことがよくあります。でも、きれいな机、きれいな部屋、きれいな職場、散らかっているよりも片づけられた空間の方がより心地良いと感じるのは、みなさん同じなのではないでしょうか。この本では、身のまわりを片づけると人生が好転し始めると述べられています。「片づけは人生を変えるためのいちばん身近でシンプルな方法、片づけはチャンスの製造マシン」などと、片づけによって訪れるチャンスや出会いについて、片づけをしないことや、もったいないからと言ってモノを捨てないことで新しいモノやチャンス、成功の機会を逃すことこそもったいないと書かれています。チャンスは準備されたところにやってくるそうです。片づけの基本動作は「出す→分ける→減らす→しまう」の4動作、一気にやるのではなく毎日少しの時間でも「習慣化」するための方法が具体的に示されています。日々



の生活の中で片づけの優先度は高くないかもしれませんが、この本ではあなたの人生と身のまわりの状態はリンクしていると述べられています。片づけの習慣を身につけて新たに良いチャンスを呼び込みたいですね。

会長行動録

1月13日(木) 県医会新春懇談会

1月14日(金) 理事会

1月15日(土) 近畿士会長会議

1月23日(日) 県放射線技師会60周年記念式典

1月29日(土) 全国士会長会議

2月6日(日) 新人症例検討会出席

2月10日(木) 理事会

2月12日(土) 砂川先生黄綬褒章記念祝賀会

2月13日(日) 気管吸引基礎講習会あいさつ

公益法人に向けて

担当理事 済生会滋賀 松岡昌己

平素は、士会活動にご理解をいただきまして誠にありがとうございます。

前回ニュースの本白水会長の巻頭の記事にもありましたように、職能部では角先生、濱田先生（ともに草津総合病院）を中心に公益法人申請のための準備をしています。

しかし、「公益法人」といわれてもぴんと来ない方もおられると思いますので簡単にご説明いたします。

平成20年12月に公益法人制度改革があり、公益法人関連3法が施行されました。それまでに認可を受けていた社団法人・財団法人は、平成24年11月までに「一般法人」又は「公益法人」への移行手続きをしなければいけません。この間に移行手続きがなされない場合は自動的に解散したものとみなされます。社団法人滋賀県理学療法士会もいずれかの選択をしなければいけません。先述の「一般法人」は、法人法の要件を満たせば登記のみで誰でも設立可能です。一方「公益法人」は、行政庁が公益性を判断し認可しますので法人としての格が違います。

当士会では平成21年に新法人検討委員会で検討し、理事会で議論を重ねました。私たちの法人は理学療法を通して県民の医療・保健・福祉の発展に寄与し、県民からより信頼される法人となるために「公益法人」を目指します。

しかし、公益法人認定のハードルはなかなか高く、平成23年1月現在で日本理学療法士協会と各都道府県理学療法士会を合わせた中で唯一鹿児島県のみが公益法人として認定されています。

現在職能部では、主務官庁である滋賀県と連絡をとりながら定款改正（案）を作成しています。これは、今回の制度改正で一般・公益のいずれの法人になるにしても現定款の改正が必要だからです。近々に会員の皆さまには定款改正（案）を見ていただきます。定款は会の法律といってもいいほど重要なものですので、しっかりと見ていただき忌憚のないご意見をお願いいたします。そして、23年度総会におきまして定款改正についてご審議していただくことを予定しています。

研修会

近江草津徳洲会病院 和田定士

「リハスタッフのための気管吸引基礎研修会を終えて」

リハスタッフのための気管吸引基礎研修会は去る2月17日(日)、ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター大会議室にて145名の参加者を迎え、盛況のうち無事に終了することができました。こうして無事に研修会を終了できたのも、連休の最終日でありながら快くご講演をお引き受け頂きました、滋賀医科大学呼吸器内科の小熊哲也先生、大津市民病院集中ケア認定看護師の山田親代先生、豊郷病院吉田先生、座長を務めていただきました滋賀医科大学の岩井先生、総合司会の草津総合病院の池野先生、ご協力いただきました士会員の皆様方のお力添えによるものと思います。この場をおかりいたしまして御礼申し上げます。

本研修会は昨年4月の厚生労働省通達を受け、同年7月に本白水会長より研修会の開催準備委員発足のご指示をいただき、準備を続けてまいりました。吸引の講習会は他府県でも少しずついろいろなスタイルで行われておりましたが、当準備委員会では吸

引操作そのものの実技主体の講習会を行うためには、参加者を限定する必要があり、現段階で当県士会が行う講習会としては、まずは多くの会員の方々に知識を深めていただくことが先決ではないかという結果に至り、今回のような、講義主体の講習会を行うことになりました。

実際研修会を終えて、講師の先生方のご講演はとても具体的でわかりやすく、アンケート内容からも多くの方々にとってもよいご意見をいただきました。気管吸引について、現段階では理学療法士は養成校では専門的な教育を受けておらず、今後も現職者の方々に向けて、このような講習会を継続していく必要があると考えております。

この講習会を機会に県士会の活動が益々活発となり、より多くの会員の方々とともに研修会や研究会が発足・発展していくことを祈念いたしましてご報告とさせていただきます。

会員各位

社団法人日本理学療法士協会
第51回近畿理学療法学会

大会長 本白水 博
準備委員長 前川 昭次

第51回近畿理学療法学会開催日程と 演題募集のお知らせ

大会テーマ	「理学療法の核ー臨床実践から学ぶスピリッツー」
日時	平成23年11月13日（日） 9時～16時
会場	びわ湖ホール・ピアザ淡海（滋賀県大津市）

- 特別講演 「理学療法士の今後の方向性（仮）」
講師 衆議院議員 山口 和之 先生
オーガナイザー 日本理学療法士協会会長 半田 一登 先生
- シンポジウム 「徒手療法の融合ー理論的背景と評価方法から考えてー」
司会 滋賀医療技術専門学校 砂川 勇 先生
講師 川田整形外科 板場 英行 先生
新潟医療福祉大学 亀尾 徹 先生
彦根中央病院 林 寛 先生
- 市民公開講座 「快適な体をつくる～女性の身体変化とボディケアのヒント～」
講師 石井美和子 先生（Physiolink）
- プレコンgresセミナー1
講師：首都大学東京 竹井 仁 先生
- プレコンgresセミナー2
講師：ボバース記念病院 古澤 正道 先生
- 教育講演1（生活環境支援系）
講師：株式会社和医科学 塩中 雅博 先生
- 教育講演2（神経系）
講師：大津赤十字志賀病院 石原 崇史 先生
- 教育講演3（心臓リハビリテーション）
講師：国立循環器病研究センター病院 安達 裕一 先生
- 教育講演4（運動器系）
講師：福井大学医学部附属病院 嶋田誠一郎 先生
- 教育講演5（がんリハビリテーション）
講師：静岡県立静岡がんセンター 増田 芳之 先生

演題応募期間

平成23年5月11日（水）14：00～平成23年6月30日（木）14：00

応募方法

- ・演題募集はインターネットを利用したオンライン登録のみです。これは、科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）のシステムを利用して行います。
- ・その他詳細は随時、大会ホームページをとおして会員の皆様にお知らせいたします。

新入会員歓迎会のご案内

今年も滋賀県理学療法士会への新入会員歓迎会を予定しております。既存会員の先生方もお誘い合わせの上、ご参加の程よろしくお願い致します。

日 時：平成23年6月26日（日） 17：45～19：45

※新人研修会終了後に開催します。

会 場：あたか飯店 浜大津店

会 費：新入会員 無料

既存会員 3000円

交通手段：研修会会場から送迎バスを出す予定。



【各施設の代表者様へのお願い】

平素より士会活動にご尽力いただきありがとうございます。この春より新人理学療法士が入職された施設におきましては、新人の先生方へ歓迎会参加申し込みのご案内をよろしくお願い致します。詳しい要綱は後日配布する予定です。

申し込み方法：新人研修会の申し込みと合わせて生涯学習部宛にお申し込みいただくか、厚生部宛にE-mailかFAXにてお申し込みください。どちらか一方でかまいません。

申し込み先：E-mail h-kawasaki@pt-si.aino.ac.jp（生涯学習部・研修会申し込みと合わせて）
ptshiga_kouseibu@yahoo.co.jp（厚生部受付）

※氏名・所属・送迎バスの希望の有無を明記。

FAX 0748-55-1178（東近江市立蒲生病院 リハビリテーション科 奥田 宛）

※飲酒の席ですので公共交通機関、送迎バスの利用をお願い致します。また会場の駐車スペースが限られており駐車できない場合があります。可能な限り送迎バスの利用をお願い致します。

前日・当日キャンセルについてはキャンセル料を徴収させていただきますのでご注意ください。

Let's study.

4月 号

1 年次 新人研修会

日 時：平成23年6月26日（日）

会 場：ピアザ淡海会議室 305会議室

申込み：下記アドレスまでE-mailにて、事前にお申込みください。件名には、必ず「1年次新人研修会・新人歓迎会申込み」と入れ、氏名・所属を明記して、新人研修会と新人歓迎会の出欠を一緒にお知らせください。

所属施設ごとの一括申し込みにご協力申込みにご協力をお願いします。

申し込み期間は、平成23年6月17日（金）まで。

h-kawasaki@pt-si.aino.ac.jp

9：20～10：50

テーマ：協会組織と生涯学習システム

講 師：川崎浩子（滋賀医療技術専門学校）

新人教育プログラム該当単位：

1－1（平成20年度以降の入会者）

3－1（平成13年度～19年度の入会者）

11：00～12：30

テーマ：職業倫理・管理運営

講 師：滋賀県理学療法士会 士会長

新人教育プログラム該当単位：1－2

13：30～15：00

テーマ：地域リハビリテーション

講 師：未定

新人教育プログラム該当単位：1－3

15：10～16：40

テーマ：介護保険制度と通所リハビリ・訪問リハビリについて

講 師：深江 富美、岩倉 智子（介護保険部）

新人教育プログラム該当単位：1－4

事務局 だより

平成23年 4 月分

○会員数 596名 (平成23年 3 月 1 日現在)

○賛助会員 5 社

会員異動

異動種別	氏 名	施設名
休 会	芝崎麻祐子	
休 会	小原友香理	
休会(継続)	二宮 綾女	
県内異動	村田 敦香	
届出事項変更	田村 公利	近江温泉病院
届出事項変更	福永 純子	小西醫院
県内異動	久郷 真人	滋賀医科大学医学部 附属病院
県内異動	池野 稔	医療法人社団 幸信会 青葉病院
県内異動	北川 里絵	おおぞらケアサービス 株式会社 ディサービスりはたま
県内異動	辻村 孝之	自 宅
県内異動	中川 奈々	近江温泉病院
転 入	小山 愛	自 宅

会員登録の誤りや不明な点がございましたらご遠慮なくお申し出ください。

入会、転入転出の届出先は昨年8月より滋賀医大に変更になっていますのでご注意ください。

異動届、入会届送付先

〒520-2192
大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学医学部附属病院リハビリテーション部
平岩康之 宛

問い合わせ hiraiwa@belle.shiga-med.ac.jp

会費未納の方は速やかに納付をお願いいたします。

会費納付先

滋賀銀行 瀬田駅前支店 普通 741056

シガケンリガクリョウハウシカイ

会 費

新卒1年目 19,000円

(入会金5,000円、協会費5,000円、士会費9,000円)

2年目以降 20,000円

(協会費11,000円含む)

新卒以外の入会者 25,000円

(2年目以降の会費+入会金5,000円)

尚、協会の定款改正により2年以上滞納すると自動退会になる可能性がありますのでご注意ください。

協会費クレジットカードの切り替えについて

すでに会員様には協会より2月に案内されていますが、Nicosカードから楽天カードへの切り替えをなるべく速やかに行っていただきますようお願い申し上げます。手続きは協会の会員専用サイト<http://www.japanpt.or.jp/gl/> より行ってください。詳しくは2月に協会より送付された「協会会員証および指定カード変更のお願い」という文書をご覧ください。

この件に関するお問い合わせは日本理学療法士協会事務局 TEL 03-5414-7911までお願いします。





編集後記

関東・東北大震災が起きました。

被災地の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

それぞれが、それぞれの立ち位置で取り組めることをしましょう。

M. Kより

広報部メールアドレス

shigaptnews@infoseek.jp

SHIGA SCHOOL
of Medical Technology

滋賀医療技術専門学校

～新しいリハビリテーション医学を学ぼう～

最速・最短・最小学費で国家資格を取得！

①理学療法学科・作業療法学科ともに最短資格取得の3年制！

②学費は3年間でわずか300万円！

③関連校である藍野大学への編入制度を計画中！

〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町967番地

学校法人 藍野学院

滋賀医療技術専門学校

TEL : 0749 (46) 2311

FAX : 0749 (46) 2313

E-mail : shiga@aino.ac.jp

http://www.aino.ac.jp